平成 15 年 10 月 22 日

「当社ユーザー病院様のウィルス感染に対する新聞報道等について」

先日、当社より一部のユーザー病院様にウィルスを感染させるという事態が発生いたしました。この件について、新聞報道等で正確に伝えられていない部分、当社の見解について以下の通りご報告いたします。

ウィルスの種類

総称名：Welchia（ウェルチア）

特　徴：ネットワークに不要な情報を大量に送り、レスポンスを悪化させる。

※ファイルの破壊活動、情報の漏洩等を行うものではありません。

新聞報道等について

あたかも電子カルテが感染したかのような表現でありましたが、病院様のネットワークに弊社経由でウィルスが混入したものであり、直接的に電子カルテを始めとした弊社が提供した医療情報システムはウィルスの影響を受けておりません。勿論、カルテデータ等の破壊、情報漏洩等の致命的な被害は一切発生しておりません。

なお、保守用回線は弊社と病院様との間を１対１の関係として接続としておりますので、第三者からの侵入等の可能性は一切ございません。

今後の対応について

弊社は今後、以下の対応を行ってまいります。

（１） シニア SE を擬似的に常駐しているかのように対応できる弊社のリモートメンテナンスは、電子カルテ導入時には必須となる「２４時間３６５日」途切れることのないシステム稼動を低コストで実現するものであります。弊社はこのリモートメンテナンスを通じて今後も継続して質・量の高い保守サービスの提供に努めます。

（２） セキュリティーゲートウェイ（監視装置）を病院様と弊社の間に配置し、今後、万が一にも同じような事態がおきても病院様にウィルス等の混入がないように万全の対策を講じます。

（３） リモートメンテナンス接続については運用マニュアルによる作業の標準化を徹底し、運用面でのセキィリティー対策を万全にします。

以　上